

# 10月1日現在で住宅統計調査にご協力を



## 住宅統計調査

総理府統計局では、10月1日現在で《住宅統計調査》を市内約1800世帯を対象に行ないます。

これは、住宅に困っている世帯数の把握、住宅関係の設備、構造など、住宅関係のいろいろな計画や施策の基礎となるもので、昭和23年から5年ごとに行なわれ、今回で6回目にあたります。

●調査事項は、住宅、敷地など34項目について行ないます  
●調査世帯は、全国で約440万世帯、この内留萌市の分は1800世帯を調査いたします。

●調査員が伺います、留萌市では、この調査のため37人の調査員を委嘱し、対象世帯へ伺います。

調査員は9月24日から30日までに訪問し、調査用紙をお届けいたします。この用紙には10月1日現在のことをご記入ください。

記入後1日から7日までの間に、再び調査員が回収に伺います。調査した個人の秘密は、絶対に保護されます。調査へのご協力を、お願いいたします。

典が挙行され、ロシア連邦共和国の総理大臣も出席しました。



ウ市庁舎を公式訪問した代表団

### 友好関係に新たな段階が期待される

代表団はウ市側に対して、両都市間の友好関係をより緊密なものにするため、幾つかの提案をいたしました。合意をみた事項は、①昭和四十八年十一月三日留萌市文化センターの竣工式に、ウ市代表団を送る。

②昭和五〇年からは、両都市が隔年毎に代表団を交流させる。

③留萌市文化センターに、姉妹都市コーナーが設けられるので、ウ市は展示資料の一部として『となく』の頭部の複製をおくる。

④児童・生徒の作品を交換する。

⑤青少年の交歓・交流を実現するため検討する。

⑥経済交流の促進について合意し、両都市産物の交易を含め日ソ貿易の拡大に努力する。

側の積極的な姿勢が目されるところで、今後、両都市間の親善交流に新たな段階を迎えることが期待されます。

代表団が訪問したときのウ市は留萌市とほぼ似たような気候でしたが、たまたま五〇年来の大雨で河川がはんらんし、二千戸の農民と広い地域にわたって農耕地が被害を受けていました。

ウ市側は、このような非常事態にあつたにもかかわらず、代表団を温かく迎え、視察・調査などに便宜をはかってくれました。

ウ市中心街で



## 市ウランウデ訪問から帰って 代表団の報告

ランウデ市と姉妹都市協約を結び、両都市の代表は、ウ市側からの招待で村上勇市議会副議長を三郎の三氏が留萌市代表団としてウ市を訪問し、団は、次の要旨の帰朝報告をしています。



### 国づくり・マチづくりに盛んな意欲

ウ市はバイカル湖のそばにあつて、人口二八万、ソビエト連邦・ロシア連邦共和国・プリアート自治共和国の首都です。

プリアート自治共和国は、ソ連邦が形成された後の一九二三年に創建したから、ことしで満五〇年を迎えることになる若い国で面積は北海道の約四・五倍、原住民族のプリアート人をはじめ、たくさんの少数民族が入交つて、八一万五、〇〇〇人が住んでいます。首都のウ市では、ことしの春、建国五〇周年を記念して盛大な式

## ソ連邦の姉妹都 留萌市

留萌市は、昨年、ソ連邦ウが交互に訪問しましたが、今年団長とする浅石鉄男・大野市8月2日帰国しました。代表



### 市民の日常生活から

代表団は、文化大学・工業大学保育園・植物栽培所・科学アカデミー・診療所・民族史博物館・結婚会館・シベリア鉄道・バイカル湖・少年キャンプ村・映画劇場・住宅団地・木材コンビナート・ラシャ工場・菓子工場などを視察しウ市のマチづくりや市民の日常生活の様子を観察しました。

市民は男女ともいわゆる洋服で、民族服らしいものを着用しているのを見かけません。一般に男子は質素な感じで、老人はことしこの感じが強く、また青年のなかにはカラーシャツや派手なネクタイをしたものもマレには見かけましたが、やはり一般に地味で、頭髪を長く伸ばしたのもみかけません。女性の服装は男性に比較して一般に派手なものが多く、色彩の強い花模様のもが多いようです。若い女性のスノはヒザ上一〇センチくらいが普通のように、トンボメガネをかけた女性などもマレには見られました。

住宅は、規格化された五階建てのものが年間一、五〇〇戸一八〇〇戸の割合で建設されています。一戸当り三〜四DKで、家具は給与の一〇パーセント程度に抑えられている。一階が買物コーナーになっていて、主婦たちが賑わっています。マチの中には、丸太を組んだ平屋建ての個人住宅が相当数残っていますが、逐次とりこわされてそのあとに集合住宅が建てられています。

街の大いなる道路は舗装されています。舗装率は相当に高いものようです。自動車が少ないせいか、街の道路には交通信号機が見当りません。不思議に思ったことは、道路に下水道や溝が見当たらないことでした。またまた雨の後で各所は水びた

し、雨や家庭の汚水などはどこへ行くのでしょうか。年間を通じて雨量が少く、土地は火山灰のような土質が一般的のようです。雨や家庭からの汚水なども、乾燥した大地の吸収力に依存しているのではなからうか、と思われました。

男は六〇才、女は五五才で労働の義務から解放されることになり。しかし、定年をすぎても働くことはできます。ある



科学アカデミーで

老人は定年をすぎても、二つの職場をもつて働いています。つまり、ノルマ制の公園の清掃を午前中にすませ、午後はもうひとつの公園のノルマを片づけるという仕事をしています。結核この老人は、年金と二人分の賃金をもたらすことになるわけですが、収入が俄かに多くなったので銀行に金を預けますが、これには金が増えるにつれ、これでは金が余って仕様がないうることに

婦人の地位は、日本の封建時代と同じように、大へん低いものであったようですが、近年はこの関係も逆転したようです。例えばウ市執行委員会委員一六名のうち六名までが女性、またウ市三行政区のうち二地区の議長を女性がつとめる、といった具合です。そのほか、各職場の管理者のなかにも、女性が目立って多いようです。

ウ市にはショッピングセンターでも言うべき公営の買物店があります。ここでは、生活絶対必需品以外のもの、例えば女性の装身具、他所ゆきの衣服、男性の衣料、喫煙具、置物や壁かけ、民芸品などの土産物を自由で売っています。日本のデパートを見馴れている私たちにあって、この店はいかにも貧弱な感じで、ウ市の市民がその精神生活の豊かなことに反比例して、消費生活が貧しいことの一側面をのぞかせていました。

飲料水が悪い、というところは、ウ市に滞在した日本人が感じることのように思いました。その理由として、冬の地面の凍結深度が三メートル以

上にも及ぶため、水道管の敷設費が大へん高いものにつくことを挙げています。しかし、彼らは私たちが考えるほどには苦痛を感じていないようで、「生は飲まないように指導」しているから、差つかえはないと言っています。



街かどで少女と

ウ市は、ソ連邦の中央集権的経済五年計画に目標をおいた工業化が急がれています。工業化を進める反面には公害が伴うのが常識のようですが、広大な土地をもつていますから、いまのところそんなことはあまり意に介していません。各企業の整備、拡充も一斉に進められ、必要電力量の確保についても新しい発電所が建設確定といった具合です。また、このことに関連して、住宅・医療・保育・消費などの諸施設から映画・演劇などの文化施設に至るまで生活環境の整備にも綿密な計画が組まれたくまひ進められるようにマチづくりが進められています。

市民のなかの団体・グループなどで、ウ市訪問の詳細な報告を求めたい、と希望される方向のために、代表団は何時でも出向しますから、ご遠慮なく市総務部庶務課にご連絡ください。